



学校評価（自己評価と学校関係者評価）年間報告

【学校運営】小学校、関係機関、上越教育大学との効果的な連携が進み、学校全体が活性化
【学力の向上】家庭学習習慣が少しずつ改善。Web 配信問題の活用など一層の授業改善が課題
【心の教育】同和学習の授業の推進。生徒会を中心としたいじめ防止の継続した取組が充実
【健康・体力】食事、生活習慣の啓発や命の教育が充実。メディア対応、運動の習慣化を推進
【地域連携】地域行事への参加・協力の増加。定期的な情報発信の充実。教育資源活用が課題
※生徒、保護者アンケートは12月実施。各アンケート結果は学校ホームページに公開しています。

【確かな学力の向上について】（研究主任 久保 成毅）

○前進している点

授業のユニバーサル・デザイン化の全校体制での取組によって、「流れ」と「めあて」を提示した授業が定着しつつあります。生徒の88%が「授業が分かる」というアンケートに対して肯定的な回答をしています。また、「学び合いの授業」では、電子ボード、ホワイトボードを活用するなどの適切な課題設定と話し合い活動を通して、思考力、表現力を高めることにつながっています。

●課題となる点

- ・毎月のWebテストや各種テストの結果を見ると、学習内容の定着の個人差が大きくなってきています。授業での学習内容のまとめや習熟に応じた指導の工夫などを一層進める必要があります。
- ・家庭学習習慣の定着は学年、学級差があるので、「木の実谷タイム」の活用をさらに工夫します。

◇来年度に向けて

- ・家庭学習の定着に向けて、授業と関連した宿題の提示や班別の学習時間調査などを進めます。
- ・Web配信問題の一層の活用（授業改善につなげる、補充・発展問題の活用）
- ・「分かる授業・達成感のある授業」を校内研修の中心として全職員が研究授業を行います。

【豊かな心の育成について】（生徒指導主事 武田一美）

○成果として挙げられる点

10月にいじめ見逃しゼロスクール集会を小4～中3までの6学年で行い、小グループに分かれて、意見交換の後、いじめを見逃さないための行動目標標語を作りました。生活委員会が22の標語の中から5つを選び、11月からの毎月、月間標語に合わせた活動を行いました。これらの取組により、10月以降、「いじめを受けて切ない思いをしている」という訴えはありません。「いじめを見逃さない雰囲気が学級にあるか」という生徒アンケートに対しても「とてもそう思う、そう思う」の人数が7月の「37人、66人」から12月の「64人、52人」に向上しています。

●課題となる点

生徒アンケートの「差別をしない、させない意識の高まり」について、否定的な回答が7月よりも12月は増加するという結果になりました。継続して人権教育、同和教育を進めていきます。

◇来年度に向けて

- ・互いの良さを認め合い、思いやりのある言動をとることができるように、生徒会や学級の活動を教職員がサポートし、生徒自身のいじめや差別を許さない感性や自浄力を高めていきます。
- ・「進んであいさつ」保護者の28%はそう思わないのに、生徒でそう思わないと回答したのは10%未満でした。あいさつが伝わっていない現状を踏まえ、さらに強化したいと思います。

【健康と体力の向上、命の教育について】（保健主事 江島美知子）

○成果として挙げられる点

小学校と連携し、「メディア接触時間は平日1時間以内」などを目標とした、年3回の「メディアセーブ強調週間」に取り組んできました。12月の生活アンケートでは、メディア接触時間を2時間以内に抑えられていると回答した生徒は63%でした。目標の80%には達しませんでした。が、「接触時間を減らそうと意識している」生徒は増えており、数年来の取組の成果が現れてきました。

●課題となる点

- ・中学生にとって、メディアはとても魅力的なものですが、浸りすぎると生活習慣が乱れ、学習もおろそかになってしまいます。自分を制御してメディアを利用できる力をつけることが大切です。
- ・2月にとったアンケートの結果では、ラインやツイッター、フェイスブックなどの利用が少しずつ増えてきています。SNSの利用が増加、多様化しており、常に見守りの目が必要です。

◇来年度に向けて

上越市教育委員会からの提言として「メディア使用は1日2時間以内に」と打ち出されています。これを共通の目標とし、それを達成するためのルール作りを小中で連携して進めていきます。

【家庭・地域連携、小中連携】（教頭 三浦 伸一）

○成果

- ・家庭、地域への情報発信。地域行事への参加……職員自己評価 A判定（1学期よりも向上）
- ・児童生徒の教育活動での交流、職員の合同研修の実施など小中連携が進む……自己評価 A

●課題となる点

保護者アンケートの項目で「分かる授業」「いじめ防止」「地域連携」の「分からない」という回答が12%でした。学校の取組が十分に伝わっていないという実態が浮かび上がりました。

◇来年度に向けて

授業参観や学校公開の年間計画を見直し、機会を増やして設定します。実際に学校に足を運んでいただき、教育活動の様子をみていただければと思います。2年目となる小中一貫教育では、現在、キャリア教育プログラムを作成中です。それに基づいた取組をさらに進め、充実を図ります。

今年度第3回目となる小中合同の学校運営協議会を2月22日に開催しました。総勢22名が参加し、各校の取組や自己評価結果の報告とそれに関する質疑・応答がなされました。また、来年度に向けて小中学校で一貫して取り組む「9年間を見通したキャリア教育プラン」を提示し、承認を受けました。貴重なご意見を今後の教育活動に生かしてまいります。



【委員の皆様による学校関係者評価結果】

A判定：十分である、B：おおむね十分 (人)

評価項目	A	B
学校の取組がよく分かる。	2	4
重点目標の達成を目指し、教職員が協力し取組が適切に行われている。	3	3
具体的な改善策が提案されている。	2	4

右のQRコードで吉川中ホームページにアクセスできます。「吉中ブログ」では、吉中の毎日の様子をご覧いただけます。

